

コラム
4

日 ASEAN 経済共創ビジョン

2023 年は日 ASEAN 友好協力 50 周年の記念すべき年だ。日 ASEAN の経済関係はこの 50 年間で大きく変化した。経済産業省及び JETRO 並びに経済界は、日 ASEAN 友好協力 50 周年を機に、将来を見据えた、新しい時代の日 ASEAN の経済共創の方向性を示す、「日 ASEAN 経済共創ビジョン」の策定に向けて議論しており、2023 年 6 月に「中間とりまとめ」を公表した。今後、日 ASEAN ビジネスウィーク 2023 での議論等を踏まえ検討委員会で議論した上でビジョンとして策定し、8 月に予定されている日 ASEAN 経済大臣会合にて報告する。

中間とりまとめでは、「50 年間の友好協力を通じて培った“信頼”を原動力として、安全で豊かで自由な経済社会を、公正で互恵的な経済共創で実現する」をビジョンとして掲げ、ビジョン実現に向けた 4 つの取組の柱として「多様性・包摂性を両立するサステナブルな経済社会の実現」「国境を越えたオープンイノベーションの推進」「サイバー・フィジカルコネクティビティの強化」「活力ある人的資本を共創するためのエコシステムの構築」を提唱している。

日 ASEAN 経済共創ビジョン中間とりまとめの概要（2023 年 6 月公表）

ビジョンの構成／章立て

1. はじめに ～日 ASEAN 友好協力 50 周年を機に、日 ASEAN の経済関係を再定義する
2. 現状の認識 ～日 ASEAN の関係性の変化を振り返り、今の立ち位置を知る
3. 日 ASEAN における新たな経済関係の方向性（ビジョン）
4. ビジョンの実現に向けた 4 つの取組の柱
5. おわりに ～日 ASEAN 経済共創ビジョン実現に向けた具体的な次なる一歩
ビジョン実現に向けた「4 つの取組の柱」の具体策の例

ビジョンのキーステートメント

「日本と ASEAN が 50 年の友好協力を通じて培った“信頼”を原動力として、安全で豊かで自由な経済社会を、公正で互恵的な経済共創で実現する」

経済共創の 4 つの取組の柱

1. 多様性・包摂性を両立するサステナブルな経済社会の実現
2. 国境を越えたオープンイノベーションの推進
3. サイバー・フィジカルコネクティビティの強化
4. 活力ある人的資本を共創するためのエコシステムの構築

本ビジョンは、日 ASEAN の企業が主体となって経済的価値／社会的価値を創造し、互恵的な経済共創を目指すものであり、その実現を日 ASEAN 各国の政府機関・経済関連機関や ASEAN の経済関連機関が連携して後押しすることを想定している。日本政府の具体的な施策としては、「サイバー・フィジカルコネクティビティの強化」としてデジタル技術を活用したサプライチェーンの高度化（5 年で 100 件のユースケース構築）、「活力ある人的資本を共創するためのエコシステムの構築」として日 ASEAN で活躍する起業家育成と若手起業家ネットワークの構築（起業家 100 人ネットワークの構築）、「国境を越えたオープンイノベーションの推進」として日 ASEAN における社会課題解決型ビジネス

共創の推進（毎年100件の社会課題解決ビジネス創出促進）、「多様性・包摂性を両立するサステナビリティの実現」として「アジア・ゼロエミッション共同体」構想の実現に向けた取組等が検討または実施されている。

さらに、こうした個別の取組を統合し推進するため、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）の更なる活用が提唱されている。ERIAは2022年9月、「デジタルイノベーション・サステナブルエコノミーセンター」を立ち上げる方針を発表しており、サプライチェーン高度化の検討に当たっては、同センターと連携して取り組む等、新たな共創拠点として更なる活用が期待される。

コラム第4-1 図 日 ASEAN 経済共創ビジョン（中間とりまとめ）のポイント

